



研究テーマ

肥満を回避する生体メカニズムの解明

軟食摂取に起因する2型糖尿病の発症機構の解明

食欲・摂食調節機構の解明



秋枝さやか

あきえだ さやか
フロンティア科学
実験総合センター
生理活性物質
機能解析分野

准教授
キーワード

肥満、糖尿病、生活習慣病、
食欲・摂食

特許情報・
共同研究・
応用分野など

研究概要

肥満や糖尿病などの生活習慣病の予防・治療を目的として、食欲・摂食の調節や生体のエネルギー代謝調節機構に関する研究を行っています。

1. 肥満を回避する生体メカニズムの解明

脂肪の多い食事をさせても太らない個体がまれに存在します。そのような動物(ラット)を解析し、なぜ太らないのか、そのメカニズムを解析し、新規の肥満治療標的分子の探索を行っています。

2. 軟食摂取に起因する2型糖尿病の発症機構の解明

2型糖尿病は遺伝的素因に加え、ストレス・運動不足・食生活などの環境要因が作用して発症し、肥満を基盤としてインスリンの分泌低下やインスリンの作用低下が起こることが知られています。一方で、日本人では明らかな肥満はなくても2型糖尿病を発症しやすいことが知られていますが、その要因は明らかになっていません。私達は、日本人が米や麺類などの軟らかい食事を好んで食べることに着目し、ラットに軟食を与えたところ、肥満を伴わない2型糖尿病を発症することを明らかにしました。このモデル動物を用いて日本人型2型糖尿病発症のメカニズムを解析し、予防のためのバイオマーカーや治療標的分子を探索しています。

3. 食欲・摂食調節機構の解明

脂肪から分泌されるレプチンや消化管ホルモン(GLP-1、コレシストキニン、ペプチド YY などが、どのように相互作用して脳へ伝達され、食欲や摂食を調節しているかについてメカニズムを解析し、生活習慣病の治療標的分子を探索しています。

ホームページ

フロンティア科学実験総合センター 生理活性物質機能解析分野

<http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/peptides/date/jp/>

技術相談に応じられる関連分野

- ・食品成分、化合物、生理活性物質による脂肪蓄積抑制効果のスクリーニング
- ・食品成分、化合物、生理活性物質による食欲増進・抑制効果の検討

メッセージ

食品成分、化合物、生理活性物質などと生活習慣病の予防・治療に関して研究のニーズがあればご連絡ください。